

会議名称	令和2年度 第3回杉並区地域自立支援協議会 記録
日時	令和2年11月13日（金）10:00～12:00
場所	杉並区役所西棟6階第4会議室
<p><出席委員> 高山由美子委員（会長）、寺西宏晃委員（副会長）、春山陽子委員、石井真由美委員、能勢豊委員、木村晃子委員、小野寺肇委員、島田祐次郎委員、平由美委員、川口理恵子委員、小佐野啓委員、吉本光希委員、相田里香委員、山崎恵委員、修理美加沙委員、下田一紀委員、早野節子委員、永田直子委員、荒井重子委員、中元直樹委員、白瀧則男委員</p> <p><出席幹事> 障害者生活支援課長：諸角純子 障害者生活支援課長：植田敏郎 杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：犬飼かおる</p> <p><傍聴> 杉並障害者団体連合会 1名</p> <p><事務局> 障害者施策課：目黒紀美子、田邊信広、池田恵子、斎藤美紀、森幸雄（記録） 障害者生活支援課：ジングナー弘美 高齢者在宅支援課：佐々木夏枝</p> <p><欠席> 奴田原直裕委員、継仁委員</p>	
<p>【次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 新委員の紹介</p> <p>4 報告・検討</p> <p>(1) 地域生活支援拠点等の整備の進捗状況について報告（資料1-1～1-4）</p> <p>(2) 第1回本会アンケートについて報告（資料2）</p> <p>(3) シンポジウムについて（資料3）</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症対策に係る区の主な新事業について報告（資料4）</p> <p>(5) 意見交換 「新型コロナウイルス感染症の実際の対応の共有・見えてきたニーズや課題について」 ～新しい支援の形を考える～</p> <p>5 その他</p>	

【配布資料】

- 資料1-1 地域生活支援拠点等の整備における現時点での進捗
- 資料1-2 地域生活支援拠点等 イメージ図
- 資料1-3 緊急ショートプラン書式
- 資料1-4 緊急SS生活状況表 Ver5
- 資料2 第1回本会アンケートまとめ
- 資料3 R2年度 シンポジウム開催について
- 資料4 新型コロナウイルス感染症対策に係る障害者施設等への生活支援事業について
- 資料5 新型コロナ禍での「困ったこと」「工夫」「良かったこと」「願い」調査

【内容】

1 開会

2 会長挨拶

3 新委員の紹介

ケア24阿佐ヶ谷（山崎委員）

幹事（諸角課長、植田課長、犬飼課長） 事務局（ジツグナ-弘美、佐々木夏枝、斎藤美紀）

4 報告・検討

（1）地域生活支援拠点等の整備の進捗状況について報告（資料1-1～1-4）

<事務局より説明>

今年度意見を頂き、それをもとに明確化したものが資料。

すまいるとの役割分担。在宅医療センターの機能を明確化等、現時点での考えを示した。

ご意見等あれば、よろしくお願ひします。

- ・緊急ショートについて。施設に説明している（4施設）。まったく出来ないとの施設はない。来年4月を目指しているが、今年度中に1か所できるように進めていく。
- ・緊急時プランについては、特定の方に協力依頼。モデル的に進めていきたい。完全ではないが、整備できたとして、その後、ブラッシュアップを図りたい。

<質問>

- ・どんな障害の方も受け入れてもらえるのか。（委員）

→それぞれの障害に対応できるように準備している。医療的ケアのある方は難しいので、入院対応となる。今後の課題。（事務局）

- ・基本情報票について。利用者のご家族は興味を持っている。自分が入院していると説明できない時等にこういった情報があるといいねとの意見も出ている。各事業所、作業所等でも記入し作成している最中。統一されたものが日中活動の場で皆さんにいき渡るといい（委員）

→基本情報はコーディネータが記載。お元気な時に事前に情報登録。データが古くなった場合は、ブラッシュアップをかける。裏面にプランの記載例を書いたが印刷されていなかった。後日、委員に送付する。（事務局）

- ・在宅医療センターについて。高度の困難ケースと基幹で扱う困難ケースの違いを教えてほ

しい。位置づけ、機能はわかるが、実態はどうなっているのか。(委員)

→在宅医療支援センターは、既に設置されている部署。約6名が配置されている。専門職。家庭全体の困難、支援者が介入について困難を感じている、複数の分野の課題、関係者が絡むケースについてのスーパーバイズ。基幹相談支援センターは、障害特性からくる本人や家庭への対応について。(事務局)

・基幹に期待。基幹がどのように個別ケースに対応していくのか。(委員)

→緊急ショート、今年度中に始めるとのことだが、コーディネーターは地ネットの職員が兼務。新設係との連携については定期的な情報交換の場を持つ。共通のシステムで情報を見れるようにしておく。開催アナウンスについては、来週の特定期間への研修があるので、そこで周知(11/18, 11/20)。また委員で特定の方にプラン作成をお願いしていく。(事務局)

(2) 第1回本会アンケートについて報告(資料2)

<事務局より説明>

カテゴリー分けしてまとめた。詳細は資料参照。

④コロナの影響について。相談支援では訪問自体が難しい、通所施設の休みで家族の負担増。支援者間の情報共有が難しくなった。物品が不足。

体制では、一人コロナが出ると、職員が休まないといけない。人員不足。

事業の実施判断に困ったとの声もあった。

⑤現場で工夫したこと、変化について。感染防止対策。対面ではなく、電話で状況確認。ズーム会議等を使う等、職員の仕事の仕方を工夫する。当事者との距離間、説明の仕方に工夫が必要だった。手洗い、うがい、マスクの着用などを徹底する等、コロナで衛生面に気を遣うようになった。

⑥行政に期待すること。経済的な支援。家族支援の整備をしてほしい。事業を継続するための経済支援。制度の柔軟な運用。PCR検査、簡単に受けられるようにしてほしい。

⑦ シンポジウムについて。オンラインでの活用や動画配信を希望する声が多かった。

(3) シンポジウムについて(資料3)

<事務局より説明>

資料参照。幹事会で話し合いを行った。今年度は「パネル展示での開催」としたい。

- ・日時は1月28日、29日の二日間パネルを区役所中棟1回ロビーに展示する。
- ・目的は区民に協議会のことを知ってもらう。立ち上げの経過、これまでの活動について。積み上げてきたシンポジウムを見える形で紹介。これまでパネリストとして参加して頂いた当事者の方にインタビューする予定。
- ・本会については、協議会とは、組織図、今期のテーマである「意思決定支援」について、わかりやすくリストを入れながら作成予定。

<各部会から>

- ① 相談支援部会(委員)

基本的な役割。昨年度は意思決定支援。これまでの成果について報告。就労について議論を重ねて、働き方サポート部会ができた。事例検討について、当事者の方の意見なども紹介する予定。

② 地域移行促進部会（委員）

内容は、地域移行支援、地域定着支援について知ってもらう。以前、シンポジウムに参加し、地域で生活されている方のその後を伝えること。

③ 高齢・障害連携部会（委員）

昨年、立ち上がった部会。制度のはざまをどうつなぐか、当事者が生活しやすく。地域で生活する当事者の方が抱える課題。8050問題など、支援者の連携がわかるような内容を考えている。

④ 働き方サポート部会（委員）

どんな地域なら、どんな会社なら、働きたいのか。グループワークから見えてきた理想の働き方を紹介。当事者の方がわかりやすい資料を配布したいと考えている。

<質問>

- ・パネル展示当日は、説明の為に配置する予定はあるか？パネル展示での波及効果を望む。

（委員）

→事務局が順番で配置と考えている。（事務局）

- ・幹事の方も説明員として参加されてはどうか。私も参加するつもりでいた（春山委員）。

- ・チラシの配布等、告知方法は？（委員）

→1月1日号の広報すぎなみとHPで周知。その他、頂いた意見を元に、この後の打ち合わせで検討していく予定。（事務局）

（4）新型コロナウイルス感染症対策に係る区の主な支援事業について報告（資料4）

<幹事・課長より説明>

- ・感染した場合の支援について。旧西田保育園で11月まで実施。事業は継続実施。12月以降は旧保育室浜田山東での実施。旧西田の実績は1名。

- ・コロナで外出を控え支援を使わない。サービス提供者の減収。特に4月、5月。高齢者、障害者施設250事業所への助成をおこなった。

- ・PCR検査。施設で陽性者が発生した場合、濃厚接触者の特定を行う。行政検査の対象外となった方の検査を行っていく。都では入所施設に限り、別途補助金がでるため、区の事業の対象外。

- ・マスクの配布。

<質問>

- ・事業継続事業について。4月、5月だが、現在、拡大してきている。今後のビジョンについて。（委員）

→6月以降も状況を追っている。現状、4～5月ほどの減収には至っていない。業務継続の視点で他の施策は考えていきたい。（事務局）

- ・課長より。旧西田においては、委員にご尽力頂いた。

→情報が錯綜。西田で受け入れてもらうにはどうやってやるのか、区から手順を示しても

らえると安心すると思う。(委員)

(5) 意見交換

「新型コロナ感染症の実際の対応の共有・見えてきたニーズや課題について」

～新しい支援の形を考える～

・委員

コロナ禍で感染症対策によりサービスはどうか維持できている。

正しい情報が届きにくくなる。必要な情報を共有できる場の工夫ができるといいのでは。次の体制づくりが必要。

・委員

対面の機会が減って、電話でやりとりが増えている。精神障害の場合は、顔を見られる場で安心とか安らぎを得られる。孤立してしまうのではないかと。コロナだから仕方ないが、不安である。

・委員

当事者不安が高まり、電話が増えた。PCR検査、テレビで煽られて、不安が高くなる人も多かった。各施設での状況も知りたい。

・委員

時間短縮。事業所を閉めたりして対応。現在は少しずつ、通常のプログラムに戻しつつある。同時にクラスターになるのでは、どうなったら迷惑をかけてしまうなどの不安を抱えながらやっている。コロナ陽性者が出た場合に、具体的にどう動くのか(業者の消毒等)がわかると、その後の活動の幅も広げられるかと思う。

・委員

5月連休明けまでは在宅勤務をしていた。母が熱を出して、一人で自宅で缶詰だった。移動支援は6月から再開。リラックスできるようになった。

・委員

マスクの配布は大変助かった。GH、利用者が通所もできず、職員も少ない中での体制。先日も肺が白いといわれた職員がいたが原因がわからず、CT検査でコロナ疑いと言われた。日中活動の保障の部分で、作業所が報酬算定される場合、グループホームでは算定できない。改善を検討してほしい。

・委員

在宅勤務の方が多くなった。生活リズムが乱れる、不安になる。電話での対応をおこなっていた。最近、相談が増。手帳を持っているがクローズ。手帳を持たず、仕事をしている方の解雇が増えている。現在、求人も少ない中での就職活動は厳しい。

・委員

コロナが明けてからも、電話相談増えている。日中活動で解消できていた方が、今は出来ないため、電話をかけてくる。グループ活動はまだ難しい。ニュースレターやズームを活用して地域の情報提供を行っている。退院時に地域の支援者が十分な情報共有ができない。

・委員

ケアマネに向けてのアンケート調査実施。課題としてまとめた。①感染情報がリアルタイムで得られない。②検査から結果が出るまでの時間がかかる。その間の在宅サービスの提供が困難③同居家族の感染、濃厚接触者発生時の要介護状態にある方への支援④発熱時の医療機関への付き添い、移送の問題⑤利用者家族の孤立⑥認知症、独居高齢者のサービス提供、継続的な日常生活の支援⑦外出抑制が続くことで、フレイル状態の悪化。

・事務局

リアルタイムの情報は個人情報関係で難しい。関係機関から情報を流してもらうと同時に、各分野にいる保健師が動いている。障害分野では、現状は本庁の保健師が保健予防課の職員と一緒に調査に行っている。施設に対しては土日含め夜間の相談体制をとっている。今後、高齢分野、予防課含め他部署にも伝えていく。

・委員

高校三年生の進路決定について。3か所の実習を2か所にしてもらったり。アセスメントも現場実習先に区の職員が行ったりと、配慮してもらっている。外部の方の参加難しい。希望の実習先、ご協力いただければと思います。

・委員

権利擁護事業の担当。訪問対応を継続しているが、感染を不安に思いながら対応している。孤立させないよう事業所が工夫をしていることで、不安が解消されている

・委員

自施設でも陽性者が出た。職員も検査してもらえるのはありがたい。事業所への対応も感謝している。通所自粛で、保護者が毎日、自宅でみることも難しくなっていると実感された。サービス利用を希望される方が増えた。短期入所先なかなかない。移動支援の現場でも、なかなか電車に乗れない、散歩で疲れてしまう。余暇活動をどのように保証していくのが課題。

・委員

電話相談の数が増えている。何年かぶりに電話があった方もいた。何かあれば、すまいるにという流れが定着してきていると感じた。プログラムも工夫しながらやっている。

・会長

「新しい支援」については、今後も考え続けたいといけない課題。他の領域で工夫していることを共有していくことは大事。支援の在り方も考えていく必要がある。支援の多様性。

(5) その他

- ・地域生活支援拠点のあり方を検討する会のメンバーについては、幹事会で話し合っただけ個別に声をかけさせてもらってもよいか(事務局) → 了承

【事務局より】

- ・次回の本会について

年度初めにご案内をした日程については、一旦白紙に。コロナの状況で追って案内させていただきます。

- ・配布資料の資料5(障団連のアンケート)は参考資料として配布。

以上